

講師プロフィール

2020年7月25日（土）

「勃興するバイオエコノミーと岐路に立つ日本」
～デジタル×バイオ時代の到来と神戸大学の挑戦～



山本 一彦

神戸大学大学院 科学技術イノベーション研究科 教授
神戸大学大学院 経営学研究科(MBA) 教授(兼任)
一橋大学大学院 経営管理研究科(MBA) 客員教授
神戸大学先端バイオ工学研究センター バイオエコノミー研究部門 部門長
株式会社科学技術アントレプレナーシップ (シード・アクセラレーター) 創業メンバー・取締役
株式会社バイオパレット (ゲノム編集) 創業メンバー・取締役
株式会社シンプロジェン (DNA合成) 創業メンバー・取締役
株式会社バックス・バイオイノベーション (統合型バイオファウンドリー) 創業メンバー・取締役
ViSpot株式会社(ウイルス安全性評価CRO) 創業メンバー・取締役

【概要】

- 合成生物学(DNA合成、ゲノム編集等)とデジタルプラットフォーム(AI、Robotics、IoT等)の急速な発展と融合によって、微生物/植物/動植物細胞/藻類等の生物資源を使って、有用物質を安定的かつ大量に生産し、利用することができる、バイオエコノミー時代が到来した。
- 勃興するバイオエコノミーと岐路に立つ日本の現状及び課題を、海外の先端事例等を交えながら考察する。
- 日本の現状と課題をふまえ、わが国のバイオエコノミーを牽引しうる「デジタル×バイオ」時代のベンチャー・エコシステムの構築を目指す神戸大学の取り組みを紹介する。

【略歴】

住友電気工業(株)、(株)野村総合研究所(企業財務調査室)を経て、ベンチャー企業などで財務、経営戦略の責任者を経験。1998年に独立系ベンチャーキャピタルを創業し、代表取締役に就任。創業期専門のベンチャーキャピタリストとして、長年にわたりベンチャー企業の投資育成に取り組む。2016年1月に神戸大学発ベンチャーの創業支援等を目的に設立された(株)科学技術アントレプレナーシップの取締役に就任(現任)。2016年4月に神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科の教授に就任(現任)。

「人と組織を動かすプレゼンテーションの極意」



新名 史典

株式会社Smart Presen 代表取締役

【概要】

プレゼンテーションは単なる説明術でも、カッコいいトークテクニックでもありません。優れた技術、優れたソリューションもそのすばらしさを理解していただき、協力してくださる方々に動いてもらってはじめて社会に貢献できます。そのために必須の要素、ストーリー構成、そして魅せ方をトータルで考え、実践いただけるようにノウハウをご提供させていただきます。

【略歴】

1997年 大阪府立大学大学院 農学研究科博士前期課程修了
1997年 サラヤ株式会社入社。技術営業とマーケティング、商品開発業務に従事
2011年 独立起業し、株式会社Smart Presen設立。特に研究者、技術者のプレゼンテーション支援に積極的に携わる。

モットーは「ビジネスは伝わってナンボ！」

圧倒的なプレゼン機会の経験をベースに、「人と組織」を動かすためのプレゼンテーション理論を確立。年間300件の企業・団体・自治体研修での指導にあたり、MOTスクールでの登壇、奈良先端科学技術大学院大学、大阪府立大学などの研究機関での登壇、文部科学省国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)、公益財団法人大阪市都市型産業振興センターなどの各プロジェクトにてプレゼンテーション・ビジネスプランのブラッシュアップの指導にあたる。

「仮題 デザイン思考」



祇園 景子

神戸大学 V.School 助教

【概要】

一言で“デザイン”といっても、服飾デザイン、建築デザイン、グラフィックデザインなど、様々な分野で使われている言葉です。本来、造形や図案、模様を考案することを意味しますが、広義では“必ずしも解が一つではない課題に対して、様々な角度から実現可能な解を見つけ出していくこと”と言えます。デザインコンサルタント会社IDEOは、デザイナーが0(ゼロ)から1を作り出す際のマインドセットと思考について、デザイナーでない人たちも実践できるように手法を提案しました。それがデザイン思考と呼ばれ、イノベーションを創り出すアプローチとして注目されています。日本でも多くの企業がアイデアを生み出すためにデザイン思考を取り入れて実践しています。

本講義では、デザイン思考を取り入れたワークショップを体験していただきます。多様な人たちと一緒に対話しながらアイデアを導き出す過程を楽しんでください。

【略歴】

2002年 神戸大学大学院自然科学研究科 修了
2011年 福山大学大学院工学研究科 博士(工学) 取得

2003年 3月 神戸理化学研究所 発生・再生総合科学研究センター・テクニカルスタッフ
2004年 4月 神戸大学 遺伝子実験センター・教育研究補佐員
2008年12月 サントリーホールディングス株式会社 R&D企画部 植物科学研究所・研究員
2011年 3月 公益財団法人新産業創造研究機構 TLOひょうご・産学連携コーディネーター
神戸大学大学院医学研究科・特命助教、神戸大学連携創造本部 応用構造科学産学連携推進センター・研究員、滋賀医科大学バイオメディカル・イノベーションセンター特任助教、神戸大学大学院工学研究科 特命助教を歴任し、2020年4月から現職。

「総合的健康度の新規可視化法「健康関数®」を社会実装へ」



水野 敬

理化学研究所生命機能科学研究センター
健康・病態科学研究チーム 上級研究員

【概要】

科学技術振興機構(JST)の事業である「健康生き活き羅針盤リサーチコンプレックス推進プログラム」で開発した総合的健康度の新しい可視化手法である「健康関数®」は、疾患発症の前段階である未病状態を評価可能な技術です。健康度の可視化法の開発は、健康経営、働き方改革といった社会ニーズに対応した取り組みであり、健康関数®を用いた今後の事業展開については、非常に多くの企業の皆様から関心を寄せて頂いている状況です。2020年2月に一般社団法人プレジジョンヘルスケア研究機構も設立し、2020年度から本格的に健康関数®共創コンソーシアムを立ち上げ、健康度の可視化のみならず健康度の是正増進に資する食薬環境空間ソリューションの評価検証も含めた健康関数®事業の本格展開を目指します。これらの活動を通して、将来にわたり健康で“生き活き”とした人生を送っていく上での「羅針盤」の提供を実現していきます。

【略歴】

2007年大阪市立大学大学院博士課程修了、博士(医学)。日本学術振興会・特別研究員、科学技術振興機構・研究員、理化学研究所分子イメージング科学研究センター・研究員、理化学研究所健康生き活き羅針盤リサーチコンプレックス推進プログラム・チームリーダー等を経て2018年より現職。大阪市立大学健康科学イノベーションセンター・センター副所長／特任准教授も兼任。著書は2008年「Fatigue Science for Human Health」、2016年「おいしく食べて疲れをとる」、2018年「疲労と回復の科学」など。専門分野は疲労科学、脳神経科学。

「仮題 英国式イノベーションと日本文化」



佐相 宏尚

(株)ケンブリッジコンサルタンツ 代表取締役社長

【概要】

英国は世界トップクラスの大学を擁し、ノーベル賞受賞者も世界で2番目に多く輩出しています。人材に恵まれた環境の中、数多くの革新的なグローバルスタートアップが生まれてきているが、スティーブ・ジョブスのようなカリスマ経営者がほとんどいない。どのようにして、AIやIoTなど最先端分野で世界をリードするイノベーションが創造を続けているのか、日本でも同様の仕組みを作ることができるのかを実例を交えながら考察します。

【略歴】

立命館大学法学部卒業後、日系商社を経て外資系携帯電話メーカー等で事業開発・技術提携・エコシステム構築などを20年以上にわたり担当。スタートアップに参画した後、世界有数の技術コンサルティングファームであるCambridge Consultants Ltd日本法人を2015年2月に設立、ライフサイエンス分野含む様々な日本企業の変革支援に従事。

「SDGsの世界感を体験する SDGsワークショップ」



今田 大介

一般社団法人インバウンド・ダイバーシティ協会 代表理事

【概要】

SDGsとは「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称で2015年9月に国連加盟国193カ国全会一致で採択されました。2016年～2030年の15年間で達成するために掲げた17の目標です。

「SDGsって聞くけどよくわからない」、「会社でSDGsに対応するように言われた」。SDGs(「エスディーゼズ」)は重要な目標で私たちの未来に必要なものですが、なんとなく難しいそうとのご意見も伺います。今回は、座学でSDGsを学ぶのではなくワークショップ形式で、カードゲームでSDGsの世界感をシュミレーション体験し、SDGsをライフサイエンス分野にてどのように取り入れることができるか一緒に考えましょう。

【略歴】

明治大学政経学部政治学科卒業後、新卒で議員秘書になる。20代で2度出馬するも落選。30代で関西学院大学専門職大学院にてMBAを取得し、コンサルファームにてPPP(公民連携)分野を担当しPFIや指定管理のアドバイザー、公共施設の第三者評価業務に従事。現在は自治体の各種計画作成業務や地理空間情報技術を活用したSDGsソリューションの開発業務に従事しつつ、自治体や企業等のアドバイザーや社会的インパクト評価/マネジメント手法による民間企業のSDGs事業開発支援業務を行っている。 神奈川SDGs社会的インパクト・マネジャー、尼崎SDGs地域ポイント制度アドバイザー
※MOT6・MOT7の修了者

「医療機器開発の現状と課題」



保多 隆裕

神戸大学医学部附属病院 臨床研究推進センター
特命准教授

【概要】

わが国の医療機器市場規模はおよそ3兆円で、年々拡大しているものの、欧米や新興国に比べてその成長率は低く、中国などに市場規模で追い抜かれる日もそう遠くない。加えて国内市場のおよそ半分は欧米製品で、特に治療系機器の輸入依存度は際立っている。講義では医療機器の開発のプロセスおよび日本の医療機器産業の現状と課題について解説する。

【略歴】

内資・外資の製薬会社で10年余り創薬研究に励んだ後に退職。海外の大学院で博士号を取得し、上席研究員としてとどまる。帰国後は神戸大学医学部附属病院で医薬品、医療機器、健康食品のトランスレーショナルリサーチを実施。

「ヘルスケア産業の支援事業とその課題」



小島 ゆかり

(株)COPELコンサルティング 代表取締役CEO

【概要】

ヘルスケア産業の創出支援を2012年から行っており、その中で企業とアカデミアの方々のマッチングや、セミナー等の企画・運営を行ってきました。そのなかで、ヘルスケア事業を行うにあたっては、多様な分野の横断的知識が必要であり、企業規模の大小や業種に関わらず、多種多様な課題を抱えているということを感じました。課題を抱えている企業を支援すべく、現在の会社を設立しました。設立の経緯と、設立から1年半経過した現在までの経緯や課題などについて、事例を交えてお話いたします。

【略歴】

人材派遣会社、金融系シンクタンク、経営コンサルティング会社を経て、2019年3月に(株)COPELコンサルティングを設立。現在、主にライフサイエンス分野の人材プラットフォームの運営、人材育成の企画・運営、中小企業の経営支援を行っている。

※MOT7の修了者

「事業化を目指す研究者のための 特許と契約」



浅野 滋啓

国立循環器病研究センター 産学連携本部長

【概要】

様々な大学や企業との多数のコラボレーションを推進してきた実際の体験を踏まえ、研究開発から事業化における知財戦略や契約交渉を中心に、企業の知財戦略は大学等のそれとどこが違うのか、企業はどんな点を重視しているか、企業とアカデミアの産学連携・企業間の共同研究開発を如何に上手く進めるか等、具体的事例も含めてお話します。研究成果を事業につなげ成功させる上で、特許の観点で先ず考えるべき重要ポイント2つ、また、研究開発、事業開発、企画、営業その他、あらゆる部門の方々も、(法律の条文や契約書の文言など難しいことは分からなくても)、最低限ここだけは押さえておきたい特許や契約のエッセンスについて、皆様と一緒に考えたいと思います。

【略歴】

1987年 京都大学大学院・農学研究科農芸化学専攻 修士課程修了
 1988年 武田薬品工業株式会社 生産技術研究所・バイオ技術センター・研究員
 1994年 武田薬品工業株式会社 特許部・特許出願グループ・課長代理
 2000年 武田薬品工業株式会社 知的財産部・知財情報グループ・主席部員(係争訴訟担当)
 2002年 Takeda Europe R&D Center (ロンドン駐在、3年)
 2005年 武田薬品工業株式会社 知的財産部・シニアマネージャー(技術提携)
 2015年 武田薬品工業株式会社 Strategy & Operations, IP & Alliance Director
 2017年 九州大学・ARO次世代医療センター 特任准教授
 2019年 藤田医科大学 産学連携推進センター 教授
 2020年 現職

(日本ライセンス協会(LES Japan)理事、教育福委員長、研修副委員長 など)

「ライフサイエンス分野における産学連携によるイノベーション創出」



坂井 貴行

神戸大学 産官学連携本部 副本部長
神戸大学 V.School 教授

【概要】

企業の開発ニーズと大学の技術シーズをマッチングして、産学連携による新製品開発を行うことは、地域経済の活性化の為に非常に重要になってきています。本講演では、これまでの産学連携、とくにライフサイエンス分野における連携事例をとおして、地域企業の新事業に繋がる産学連携の成功ノウハウについてお話します。

【略歴】

1994年04月	三菱自動車工業株式会社
1999年11月	立命館大学 産官学連携推進室
2002年10月	関西TLO株式会社(現:株式会社TLO京都) 取締役
2012年05月	Cornell University, Center for Technology Enterprise and Commercialization, Visiting Scholar
2013年10月	徳島大学 産学官連携推進部 教授
2014年04月	徳島大学 四国産学官連携イノベーション共同推進機構 教授
2014年06月	株式会社テクノネットワーク四国 代表取締役専務取締役(兼務)
2015年06月	株式会社テクノネットワーク四国 代表取締役社長(兼務)
2016年04月	神戸大学大学院 科学技術イノベーション研究科 教授
2020年04月	神戸大学 バリュースクール 教授

「仮題 株式会社ナティアスの起業」



片岡 正典

株式会社ナティアス 代表取締役社長

【概要】

アカデミアでの研究活動の成果に基づいてベンチャーを起業して4年が経過しました。現在感じていること、起業前に考えておくべきこと、起業後の備えなどを伝えたいと思います。

研究者がベンチャーを起業する意味や起業することで得られるベネフィット、苦労話なども交えて話します。

大学や公的研究機関に在籍しながら起業を考えている皆様の一助となれば幸いです。

【略歴】

名古屋大学で学位取得後、同大で博士研究員、助手。岡崎国立共同研究機構(現自然科学研究機構)を経て高知大学に移籍後に、株式会社四国核酸化学を起業。同社の神戸研究所開設を機に神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科客員教授を兼任。社名を株式会社ナティアスに変更し、代表取締役に就任。

現在に至る。

「製薬産業におけるオープンイノベーション」



有岡 伸悟

塩野義製薬(株)事業開発部 オープンイノベーション

【概要】

近年、製薬会社の研究開発生産性は低下の一途を辿っている。この原因の一つとして、単一の製薬会社での研究開発が難しくなっている事があげられるだろう。このような背景から、製薬会社ではアカデミアやベンチャー企業で見出された、新規アイデアや医薬品の種を見つけ出し、うまく開花させる取り組みに力を入れている。今回は、上記の取り組みを概観すると共に、弊社の事例をご紹介します。また、私も皆さんと同じMOT受講生でした(MOT4-6)。本MOT講座で学んだ事の実践や、ここで得られたネットワークを生かしたオープンイノベーションの実践に関しても、受講生に近い視点で共有できればと思います。

【略歴】

2004年:大阪大学大学院工学研究科博士前期課程

2004年:塩野義製薬株式会社入社

2004年~2014年:塩野義製薬株式会社にて創薬研究に従事

2010年:北海道大学生命科学院博士後期課程修了

2015年からオープンイノベーション業務に従事。

現在、事業開発部にてアカデミアシーズの発掘や産産連携等を起点とした新事業創出や、産業基盤を作る為のコンソーシアム等に係る。また、本MOT講座を第4期から第6期まで受講し、ここで学んだ事を生かした施策を会社の実装してきた。また、ここで得られたネットワークを生かしたオープンイノベーションの実践にも取り組んでいる。

「リーダーシップの本質と実践」



能見 貴人

FORESIGHT & LINX 株式会社 代表取締役社長

【概要】

今日、あらゆる局面でリーダーシップの重要性が唱えられているが、一方でリーダーシップの本質とは何かという問いに明確に答えられる人は少ない。多くの場合リーダーシップとマネジメントが混同され、組織でのリーダーシップ開発が間違った方向に進められているケースも少なくない。本講では、リーダーシップに関する様々な疑問に答えつつ、リーダーシップの本質を定義し、リーダーとして心に留めておくべき重要な点を解説する。

【略歴】

・ FORESIGHT & LINX 株式会社 代表取締役社長 (2017 May ~) FORESIGHT & LINX (株) は、国内外の製薬企業やバイオベンチャーのオープンイノベーション、事業開発、創薬戦略に対するコンサルティングと実行支援を行う会社です。特に、海外と国内の企業間でのパートナーングを専門としています。

・ Director, External Science & Partnering, Sanofi Global R&D(2014~2017)

・ 製薬研究開発&事業開発 コンサルタント(2007~2014)

・ リーダーシップ開発 コンサルタント & 幼児の創造性開発のための教室 主宰 (2007~2014)

・ GSK筑波研究所 所長 (2002~2007)、生物科学研究部 部長 (1999~2007)

・ ノバルティス 移植研究領域 マネジャー (1996~1999)

・ 岡山大学工学部生物応用工学科 助教授 (1990 1996)

・ Roche分子生物学研究所 ポスドク (1989~1990)

・ 大阪大学産業科学研究所 助手 (1986~1990)

・ 東京大学大学院薬学研究科 博士課程修了 薬学博士 (1986)

「ライフサイエンスでの起業：Nexuspiral設立での経験」



増田 直之

Nexuspiral株式会社 代表取締役社長

【概要】

私は2019年に共同研究者とともに、Nexuspiral株式会社を立ち上げました。起業をするのは初めてであり、試行錯誤を繰り返しながらここまで進めてきました。特にライフサイエンス分野での起業は、参考になる例も少ないことからわからないことばかりでした。ライフサイエンス分野での起業・新規事業立ち上げなどにおいて少しでもお役に立つことがあるかもしれません。会社設立までの経緯と立ち上げた後の様々な経験について、お話しさせていただきます。

【略歴】

博士(工学)、経営学修士

1998年～2014年 アステラス製薬株式会社(創薬研究、神経科学Gにて精神疾患治療薬研究に従事)、
2014年～2015年 米国 Agensys Inc.(米国ベンチャー企業にて抗体薬物複合体による新規抗がん剤創出研究に従事。)、
2015年～2016年 アステラス製薬株式会社(新規技術の科学性評価を担当し、技術導入・外部連携の推進)、
2016年～2019年 神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科 特命准教授(大学発の科学技術の商業化、ベンチャー創出支援、アントレプレナーシップ教育の推進)、
2019年より現職

「ベンチャーマインド」



安達 宏昭

株式会社創晶 代表取締役社長

【略歴】

2003年3月 大阪大学大学院工学研究科博士後期課程、電気工学専攻 修了、博士(工学)
2003年4月 大阪大学大学院工学研究科 助手
2005年7月 株式会社創晶 代表取締役社長
2011年6月 社会福祉法人あおば福祉会 理事
2013年4月 株式会社創晶應心 代表取締役社長
2014年5月 株式会社創晶大学 代表取締役社長
2016年1月 株式会社dotAqua 代表取締役社長
2016年2月 株式会社A・P・M 創業者、取締役
2016年3月 株式会社創晶超光 代表取締役社長
2016年7月 大阪大学大学院工学研究科 招へい教授

【講義概要】

2005年に大阪大学発ベンチャーの「株式会社創晶」を起業する際、私自身の思いとして、ベンチャー起業に対する心理的な不安がマイナス要因として立ちはだかっていたが、心理学的な手法でのメンタルトレーニングにより解消することができた。それ以来、ベンチャーマインドを大切に、新しいことへの挑戦やいろいろと行動することに努めてきた。その結果、現在までに6社のベンチャー設立に関わってきた。

本講義では、ベンチャーマインドと題しているが、ベンチャー起業に特化せず、失敗を恐れずにチャレンジする気持ちを獲得するヒントを、私の起業経験からお伝えしたいと考えている。つまり、誰にとっても必要なメンタリティーであるベンチャーマインドの重要性を理解し、皆様と一緒に議論しながら、ベンチャーマインド獲得に向けたトレーニングも実施できればと思っている。皆様のマインド変化のきっかけとなる講義にできれば幸いである。